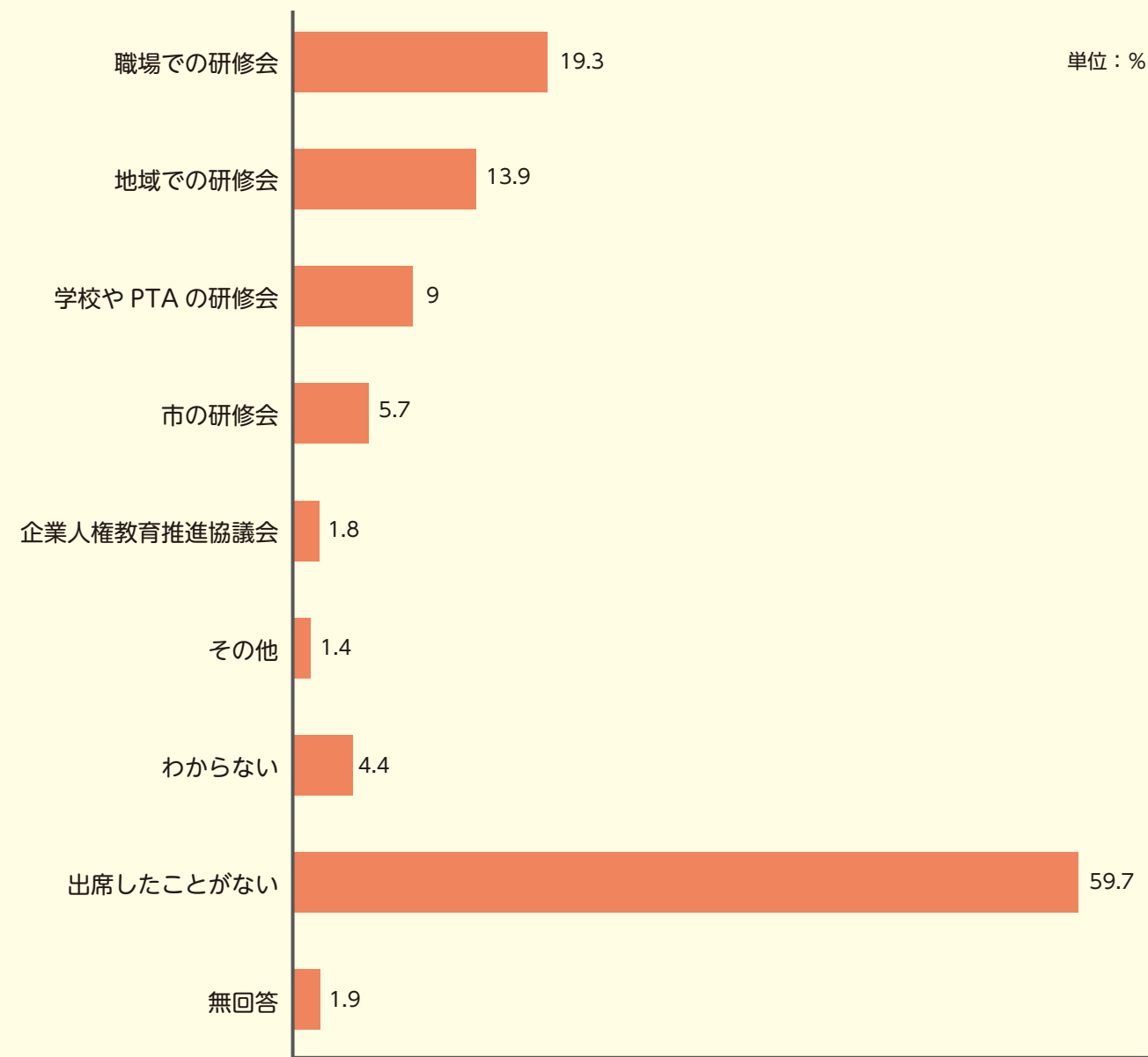


人権の研修会に参加してみませんか

下のグラフは、長野市が2021年に実施した人権に関する市民意識調査の中の1つ、「あなたは、最近5年間にどのような団体の研修会へ参加したことがありますか。次の中から3つ以内選んでください」という質問についての結果をまとめたものです。



職場や地域・学校など、様々な場で人権の研修会が開かれています。人権に関する状況は日々変化しています。研修会に参加し、最新の人権状況を理解することは、私たちの人権感覚の向上につながります。まずは、身近な場で行われている研修会に参加してみませんか。

「人権を尊び差別のない明るい長野市を築く条例」より

長野市は部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくしていくことを願い、この条例を制定しました。

●目的

第1条 この条例は、すべての国民の基本的人権の享有及び法の下での平等を保障する日本国憲法の理念並びに部落解放都市宣言の精神にのっとり、人権意識の高揚を図ることにより、部落差別等あらゆる差別のない明るい長野市を築くことを目的とする。

●市の責務

第2条 市は、前条の目的を達成するため、必要な施策を積極的に推進するものとする。

●市民の責務

第3条 市民は、相互に基本的人権を尊重し、前条の規定により市が実施する施策に協力するとともに、自らも差別及び差別を助長する行為をしないよう努めなければならない。

●教育及び啓発活動の充実

第4条 市は、国、県及び関係団体と連携し、市民の人権意識の高揚を図るための教育及び啓発活動を積極的に推進するものとする。

（1996年7月1日施行）

「長野市人権政策推進基本方針」にあげる人権課題

2013年2月に策定された「長野市人権政策推進基本方針」では、取り組むべき人権課題として、次のものをあげています。

- 同和問題
- 女性
- 子ども
- 高齢者
- 障害者
- 外国人
- HIV感染者・ハンセン病患者等
- 犯罪被害者等
- 様々な人権に関する問題
 - ・刑を終えて出所した人等
 - ・中国帰国者等
 - ・性的指向及び性同一性障害（性的マイノリティ）
 - ・ホームレス
 - ・アイヌの人々・北朝鮮当局による人権侵害（拉致問題等）
 - ・暮らしの中に潜む様々な人権問題
- インターネットによる人権侵害

。。。お問い合わせは。。。

長野市 地域・市民生活部

人権・男女共同参画課

TEL026 (224) 5032

発行 2025年5月



令和6年度 人権啓発ポスター・標語コンクール 一般の部 最優秀賞作品

人権ながの

令和7年度版



令和6年度 人権啓発ポスター・標語コンクール 小学生・中学生の部 最優秀賞作品



長野市

なぜ、差別や人権侵害は起きるのでしょうか？

無知、無関心、無理解

正しく知らない
大勢に流される
当事者に思いを寄せられない

差別や人権侵害

身近にある様々な差別や人権侵害

差別や人権侵害をなくしていくためには、今起きている人権の問題を正しく知ることが大切です。

同和問題に対する意識の変化【同和問題】

同和問題を切実な人権問題と考える人の割合が徐々に減少してきていますが、新たな問題も生じてきています。

- 2016年施行の「部落差別解消推進法」**
第1条では、インターネットの使用により部落差別の状況が変化してきていると言っています。
- インターネットによる部落差別に対して**
誤った情報に惑わされないために、一人一人が今まで以上に同和問題を正しく理解することが求められます。



根強く残る性別役割分担(ジェンダー)【女性】

「男だから、女だから」の決めつけや思い込みが、個性や能力の発揮を妨げる要因にもなります。

- 世界共通の目標(SDGs)「ジェンダー平等」**
女性への差別や暴力をなくし、すべての女性が能力を伸ばすことができるような社会の仕組みづくりを目指します。
- ジェンダー平等の確立を**
意思決定の場への女性の参画を進める等、性別に関係なく権利や機会、そして責任も分かち合う社会を目指しましょう。



増加する児童虐待に関わる相談【子ども】

毎年過去最多を更新する状況にあり、中には命に関わる痛ましい事件に至るものもあります。

- 児童虐待をなくすために**
悩みを抱える保護者に支援の手を差し伸べることが重要との考えから、地域でその輪が広がることが期待されるようになってきています。
- 未来を担う子どもは社会の宝**
人口減少が加速し少子化が進む現在、地域を含め社会全体で子どもの育ちを支えることが重要になってきています。



安心して暮らせる社会に【高齢者】

犯罪による被害、認知症、高齢単身世帯など、高齢者の暮らしに関わる問題が背景にあります。

- 行政の相談やサポート支援の活用**
市では「あんしんいきいきプラン21」などにより、高齢者を支える地域の体制づくりを進めています。
- 見守り支える地域社会をめざして**
周囲が見守り、地域で支え合える社会をみんなで築いていきましょう。



壁を取り除くのは社会の責務【障害者】

障害の克服は「本人の努力を求める」ものではなく、「障壁をつくる社会がそれを取り除く責務がある」のです。

- 2024年4月、民間事業者にも合理的配慮の提供が義務化**
障害者への合理的配慮が、国、地方公共団体、民間事業者すべてで行われています。
- 一人一人が心掛けたいこと**
私たちは障害のある人の立場に寄り添い、主体的に関わっていきましょう。



変わりゆく外国人労働者の環境【外国人】

少子高齢化に伴う労働力不足、外国人労働者の重要性が増す一方、人権侵害は残っています。

- 変わりつつある外国人の就労に関わる制度**
技能実習制度から就労成制度に変わろうとしています。外国人労働者が安心・安全に働ける環境作りが必要です。
- 人権を守るために**
私たちは、外国人と共に生きる社会のあり方を考え、外国人労働者の人権問題に関心を持って、見守っていきましょう。



今、ハンセン病に対する意識は？【ハンセン病患者等】

ハンセン病差別があったことを知らないという人が増え、差別はなくなったようにも見えます。

- 2024年、国が実施したハンセン病に係る意識調査**
「元患者家族との結婚に抵抗を感じる」と答えた人の割合が、21.8%もありました。
- 今も残る目に見えない差別**
差別意識をなくすためには、ハンセン病を正しく知り、理解することが求められています。



被害に遭われた方に寄り添って【犯罪被害者等】

直接的な被害だけではなく、その後に生じる精神的、経済的困窮などの二次被害にも苦しんでいます。

- 「長野市犯罪被害者等支援条例」施行(2024年1月)**
被害からの早期の回復と、生活を再建するための支援を行います。
- 社会全体での支えが必要です**
当事者が何を求めているのかを理解し、状況に合った対応をすることが大切です。



「違い」はかけがえのない個性【性的マイノリティ】

社会的な抑圧や周囲の無理解により、ライフステージごとに様々な困りごとや悩みを抱えています。

- 「長野市パートナーシップ宣誓制度」導入(2022年)**
国でも「LGBT理解増進法」が施行(2023年)されるなど、性の多様性について理解を広める動きが広まってきています。
- 一人ひとり「違う」ことが、「普通」**
性のあり方は多様で、全ての人に「違い」があることを受け入れることが大切です。



止まない誹謗中傷【インターネット】

SNS上の匿名による誹謗中傷等で傷ついている人がいます。

- 「長野市インターネット上の誹謗中傷等の防止及び被害者支援に関する条例」施行(2023年10月)**
相談支援体制の整備や情報を活用する力の向上等の推進を行います。
- 被害者にも加害者にもならないために**
情報の発信・収集に責任を持つことが求められます。

